

平成 16 年度「特色ある大学教育支援プログラム」
採択取組の概要および採択理由

大学・短期大学名	* 1	整理番号	3-1-005
応募テーマ	主として総合的取組に関するテーマ		
取組名称	コアリッションによる工学教育の相乗的改革		
申請単位	共同		
申請担当者	三木 千壽（東京工業大学）		
<p>（取組の概要）</p> <p>本取組（開始年度、平成 8 年）は、「科学技術創造立国」を担う人材育成に関し大きな責務を担っている複数大学（北海道大学、東北大学、東京大学、東京工業大学、名古屋大学、大阪大学、九州大学）がコアリッション（大学共同体）を形成、強力な改革の推進とスピードアップを可能とし、急激な社会変化に対応できる大学・大学院教育の強力な改革推進を行おうとするものであり、個々の大学では対応が難しい新しい教育の推進を行おうとするものである。</p> <p>本取組の特長は、教育改革を推進するためのコアリッション・モデル（①各大学の理念目標の尊重、②競争と協調、③二重の体制（コアリッション組織の取組と大学の取組）が改革の両輪、④学部長・研究科長が強力に支持・支援）を確立し、相乗的改革実績を積み上げた点にある。事業参加大学の 85%以上で改革のスピードアップ、他大学への波及効果、相乗効果を認められ、より良き授業を目指す教員が増加し、学生の授業に対する理解度・満足度が向上する等の教育効果が得られている。事業で開発した創成科目が全国的に普及しているなど多くの有効性が見出されている。現在、コアリッション・モデルを大学院教育に適用し、自立・上昇志向する 21 世紀型博士育成に向けたアクションプランを提案、具体化しつつある。</p>			
<p>（採択理由）</p> <p>この取組は、東京工業大学をはじめ 8 大学工学部長会議の下で創設された「8 大学工学教育プログラム委員会」が推進してきた工学系教育コアリッション（大学共同体）の形成と拠点機能の創出を達成するために、既に 8 年以上にわたって組織的に実施され、「創成科目」や「達成度判定」の導入・実践・影響に実証されるように大きな成果を上げています。</p> <p>現在、大学には、社会・経済構造、産業構造の急激な変化に対応できる特色ある教育が求められており、この取組の工学教育における総合的・体系的かつ先導的なプログラムの革新という点は、こうした社会の多様な要請に充分応えるとともに、国の進める「科学技術創造立国」を担う高度な人材育成にも合致した優れた取組であると認められます。特に、「到達度判定」にみられる教育効果査定については先進性も見られ、今後、教員や学生について他者からの強い刺激と向上心が求められつつあることを鑑みれば、この取組は他の大学、短</p>			

期大学および他分野の参考になり得る優れた事例であると言えます。

また、この取組には、大学院博士課程に特化した活動が展望されていますが、学士課程・修士課程の充実・向上との関連性を一層明確にし、併せて8大学間相互の学生交流を展開していくという課題が認められ、これらを克服すれば更なる発展が期待されます。

* 1 東京工業大学・北海道大学・東北大学
東京大学・名古屋大学・大阪大学・九州大学